



TOPICS

ウェブサイトやYouTubeで公開している校友会企画の中から、2つのゲストトークの一部をご紹介します！活躍中の卒業生をゲストに、学生時代の話、クリエイティブのルーツ、今現在についてお話を伺いました。全文はYouTubeからご覧ください！

TUAD大同窓祭 校友大会 2023 in 山形

開催日:2023年9月23日(土)
会場:パレスグランデール(山形市)
登壇者:鹿野護 [映像学科教授 | 1期生]
× 村上滋郎 [洋画コース准教授 | 11期生]
× 中山ダイスケ [東北芸術工科大学学長]
進行:渡部桂 [建築・環境デザイン学科教授 / 校友会理事 | 2期生]



映像学科教授
鹿野護 Mamoru Kano

美術科洋画コース准教授
村上滋郎 Jiro Murakami

卒業生であり、芸工大現役教員のお二人からクリエイティブな活動の原点や、アートやデザインで再び地域を起こしていくことについてお話を伺いました。

村上 自分が住んでいる場所や、今見ている景色から「これなんだらう」と疑問に思ったり、そういうところを掘り下げていって今の活動に繋がっているの、「問いを作ること」です。地域に関わることで刺激を受けて気づきやアイデアがどんどん生まれていると思います。あとは、アイデアとか思いついたことをその場でなるべく行動しついであったほうがいいんだなと。「どういう風にやろうか」といろいろ考えたアイデアみたいなものを、あとでやろうと先延

ばしていたところがあるので、今日、身を引き締めて思いついたことをガンガンやっていきたいなって思いました。
鹿野 社会にはいろんな問題や課題があって、突き詰めていくと本当に大変で辛いこともあると思うんです。けど、そこで楽しむ気持ち、熱中できるとか、面白がるってすごく重要だと思います。デザインやアートの発想でちょっと別の視点から見えていくことで、わくわくしたり夢中になったりもできる。それで地域を見つめていって、深く掘れば掘るほど本当に世界中でそこしかないものがありますよね。グローバル化の中で、それが実は勝負のカギになっていて。「楽しみながらかに地域を見つめられるか」みたいなことをこれからやってい

きたいですし、それを大学という場で若者たちと一緒に実現したいなと思っています。
中山 この規模の地域にこの規模の芸術大学があるっていうコンビネーションはここにしかないんです。すごく唯一無二の存在であるので、鹿野先生がおっしゃったように、ここにしかないものを作って、比べられる大学じゃなくて選ばれた大学にどうするかというところで勝負に出たい。普通じゃない大学、ここにしかないから来たと言ってもらえる大学にしたいなと思ってます。

その他、コロナ渦を切り抜けながら生まれたもの、教育者として戻ってきて感じたことなど、たくさんのお話がありました。ぜひYouTubeをご覧ください。



校友会設立 20周年記念トーク

開催日:2022年10月16日(日)
会場:オンライン配信
登壇者:長瀬渉 [ながせ陶房作家 | 5期生]
× 松田崇弥 [ヘラルポニー代表取締役 / Co-CEO | 19期生]
× 中山ダイスケ [東北芸術工科大学学長]
進行:香坂あかね [フリーアナウンサー / 校友会副会長 | 4期生]



ヘラルポニー代表取締役 / Co-CEO
松田崇弥 Takaya Matsuda

ながせ陶房・作家
長瀬 渉 Wataru Nagase

中山学長と長瀬さん、松田さんによる校友会設立20周年記念トークを開催し、お二人の学生時代・現在・未来、大学への思いなど様々なお話を伺いました。

松田 知的障がいがあるからこの表現が生まれているとあえて言うことでイメージを変えつつ、いずれは作家さんが主役になり、障がいより作家名が先に出て個人にファンがつくアーティストレベルのように成長していけたら嬉しいです。芸工大は教授陣にプレイヤーが多いというのが学生にとって素晴らしいことで、僕はこの教授陣を見てはじめて「楽しそうに仕事をしている人っているんだな」って思ったんですよね。

純粋に仕事全体をクリエイティブに楽しんでいる人になれたらなって感じていました。
長瀬 うちだけじゃなく近所も良くなった方がないじゃないですか。そういう感覚で自治体の手伝いとかを一生懸命やっていたら楽しい連中も集まって、地域人たちが活用してくれたり、そういうのに向かっているだけなんです。エリアルノベーションなんて言葉もなかったです。俺自身が経験した大学の生活、学生気分を今でもそのままやっていて、目標がそのまま「一生学生気分であらう」だった...。今の学生は点では頑張ってるすごい作品を作れるので、その後の「紐づけ」さえあれば作家にこだわらなくても楽しい人生になっていくはずなんですよ。

中山 芸工大は「芸大」って呼ばれなくてもいいです。新しいジャンルが出来ればいいなって思ってるんで、一番大変なのはまだ山形のみなさんにアートやデザインが面白いんですって啓蒙し続けていることですね。30年経ってもまだまだ丘の上にある変な大学なので「山形ピエンナーレ」をやったり、ヘラルポニーが岩手で、長瀬さんが九州でしているみたいに、芸工大からマインドがエリアルノベーションされていくといいなっていう感じがな。
卒業生ならではの学生時代の懐かしい話も盛りだくさんです。ぜひご覧ください。



TUAD OB/G BATON

リレーインタビュー『TUAD OB/G BATON』は、アートやデザインを学んだ卒業生たちが歩んできた日々と「今」を、インタビューと年表でご紹介していきます。インタビュー記事はウェブサイトでもご覧いただけます。



フォトグラファー
鈴木由美恵 Yumie Suzuki

辿り着いたのは“一生忘れられない時を切り取る幸せ”

国内外を旅して写真を撮り続ける中で“どうせなら好きな写真や旅を仕事にしたい”とガラス作家からフォトグラファーへ転身。旅する中で辿り着いたパナマの人や土地の空気感の虜となり移住。パナマに拠点のある勤務先でフォトグラファーとして活躍中。(2001年 芸術学部美術科工芸コース入学) Instagram | @yumiefotografia



怪談作家
黒木あるじ Aruji Kuroki

世の中の不可思議・奇々怪々を求めて

映像を制作する楽しさに触れ生産デザイン学科から情報デザイン学科への転科。卒業後は映像関係の仕事しながら地方紙での執筆活動も行い、ひよんなきかけから怪談実話の書き手の道へ。(1999年 デザイン工学部生産デザイン学科から情報デザイン学科へ転科) Instagram | @yamadaryusuke https://www.design-direction.com



RYUSUKE YAMADA DESIGN 主宰
山田隼介 Ryusuke Yamada

追い求めるは自分メイドのデザインとの向き合い方

本当にやりたいことは何なのかを疑問に思いつく活動を中断し、大学院へ進学。“自分なりのデザインとは何か?”の問いに答える研究を続ける。企業勤務を経験後、独立。自分にしかできないデザインの仕事に挑戦中。(2002年 デザイン工学部生産デザイン学科入学) Instagram | @kazuko_furuta https://www.furutakazuko.com



画家
古田和子 Kazuko Furuta

自分と“世界”を重ね合わせて描く

憧れの先生とのびのびした校風に惹かれ山形へ。自身が暮らす場所と世界で起きていることを重ね合わせ作品を制作し、不思議に思うことを不思議のままに表現できること、白とも黒ともつかないものを受け止めることができることを絵から教わった。(2009年 芸術学部美術科日本画コース入学) Instagram | @kazuko_furuta https://www.furutakazuko.com

INTERVIEW

50号記念号のメインビジュアルは、犬をメインとしたユーモラスで「芯」を感じる作品が特徴の彫刻家・佐野美里さん、その撮影をフォトグラファー・布施果歩さんの二人の卒業生に担当いただきました。

メインビジュアル作品

彫刻家
佐野美里 Misato Sano



©Maki Indo

Q1 表紙掲載の依頼を受けての率直なお気持ちを聞かせてください。
お声がけをいただいたとき光栄です。現在は宮城県松島町のアトリエを拠点に、制作活動を行っています。この号をきっかけに作品を知ってもらえると嬉しいです。

Q2 作品制作で大切にしていることはありますか？
作品は全部自刻像であり憧れの人物像でもあります。誰にも遠慮せず自分のためだけに自由に楽しく真剣に制作に向き合うことだと思います。

Q3 これから挑戦したいことはありますか？
まだ行ったことのない国で展示会をして、その土地で生まれ育った人たちに私の作品を見てもらうことです。言語を超えた感情の交換ができたらとても幸せです。

メインビジュアル撮影

フォトグラファー / ストロボライト所属
布施果歩 Kaho Fuse



Q1 メインビジュアルの撮影を担当された感想をお聞かせください。
佐野さんは愛らしきある女性で、その作品からは「みんな生きてんだなあ」という気持ちが思い出され、そういうものを写真に表現できるかを考えながら撮りました。

Q2 カメラマンを目指したきっかけは？
3年次の写真・映像制作の演習授業を通し「コミュニティデザインのスキルを使ったカメラマンになったらどんなことができるだろう」という思いから目指しました。

Q3 これから挑戦したいことはありますか？
映像の仕事は首都圏中心にまわるのが現状です。「地方の映像」がどうあるべきかを考え、より自分らしい作風を見出し、「地方における映像」を発展させていきたいです。

※インタビュー全文は校友会ウェブサイト内「知る」にて公開しております。

INFORMATION



校友大会 2025 開催決定！

毎年たくさん卒業生に協力・参加いただき開催している「校友大会」。2025年は山形開催となります！東京開催とはまた一味違う、山形だけの企画を準備中です。
◎日時:2025年6月28日(土) 14:00~
◎会場:パレスグランデール(〒990-2432 山形市荒橋町1-17-40)
◎会費:3,000円 ※中学生以下無料
※2025年4月以降、参加申込を開始予定。

芸工大卒業生マルシェ

東北芸術工科大学校友会では2025年度も芸工祭に合わせて「芸工大卒業生マルシェ」を開催する予定です。在学生とは一味違う「卒業生による芸工祭」。自身の創作活動の発信に、友達に会いに、この機会にぜひ芸工大へお越しください。
◎開催日:2025年9月20日(土)・21日(日)
◎会場:東北芸術工科大学
◎出店者募集:2025年4月以降を予定
※開催日は芸工祭開催に準じます。
※出店要項は4月頃校友会ウェブサイトに掲載予定です。

卒業生支援制度

校友会では校友会会員を対象として、卒業後の制作や発表活動を支援する「活動支援金制度」、会員が自主的に企画開催する同窓会等のイベントを支援する「個別同窓会制度」の2つの支援金制度を運用しています。ぜひご活用ください。

FOLLOW US!

校友会や卒業生の活動情報は校友会ウェブサイトおよびSNSで発信しております。

校友会 WEBサイト
https://tuad-koyu.jp

